

# きぬがさ

東近江市立能登川西小学校  
学校だより No.14  
平成 29 年(2017 年)12 月 1 日

## 「家庭読書」のすすめ

武村節子



いつの間にか朝夕の寒さが厳しくなり、師走のあわただしさを近く感じる頃となりました。皆様には、ますますご健勝でお過ごしのことと存じます。

過日は、「マラソン大会」を保護者・地域の皆さんの応援のおかげで無事を終えることができました。児童会主催の「きぬがさ祭り」では、子どもたちの自主性や独創性が見られ、殊のほか実り多い取組であったと思います。様々な面でのご支援ご協力に心より感謝致します。

さて12月に入りました。年末年始はご家族やご親戚などと過ごされる時間も多いのではないかと思ひ、読書をすすめるよいチャンスと思ひましたので、「家庭読書」について書かせていただきます。

「家庭読書」——それは、文字どおり家庭で行う読書です。親子読書とも言われます。たとえば就寝前、家庭の食卓やこたつ、あるいはお布団の中。本は絵本や童話でも何でも。対象は幼児から小学生くらい、親子で一緒に楽しむ家庭内読書のことです。

大人でも子どもでも自分の用事にひとまずけりがついたときは、ほんの一瞬かもしれませんが心に安らぎを感じます。それが一日の終わり、就寝前となれば、その一瞬がひととときに変わります。そのひとときを活用して、5分あるいは10分間、親子で読書を楽しもうというのです。

用意する本は1冊。読み語りするなら、絵本でも童話でも、以前に読んだことのある本でも、もうすでに話の筋を知っている本でもかまいません。難しくない易しすぎるくらいの本がよいでしょう。それを子どもが探して持ってきます。今日はこの本を読んでもらおうと自分で決めた1冊です。毎日同じ本でも文句は言わないでください。自分で決めた1冊だからよいのです。ゆったりとした気持ちの中で「家庭読書」が始まります。高学年なら読みかけの本をお互いに持ってきて、静かに読みましょう。親がだまって先に読みかけると子どもが気づきます。同じ時間と場所を共有し、心が共鳴するすてきな時間になるはずです。これは人間が本来持っている「心に響く・感動する楽しさ」です。同じ楽しさでも、宿題を済ませたからと、寝る前にご褒美でゲームの時間を与えるなんて、とんでもありません。ゲームは、刺激によって脳が興奮するために快楽を感じるのです。深い睡眠を妨げてしまいます。

「家庭読書」の役割は、ゆったりとした安心感に包まれながらの心のふれあいです。このふれあいの安心感や心地よさを知った子どもは、再びその心地よさを求めて「また本を読もう」「読んでほしい」と願うはずです。たった10分でよいのです。親としては、家事も残務もしたいこともあるでしょうが、それらを10分だけ延ばしてこのひとときを保証してあげましょう。その10分は、子どもが親を独り占めでき、自分を大事にしてもらえる満足の時間なのです。そして、ぐっすりと熟睡させてあげましょう。熟睡は明日への糧です。

やがて子どもは、自分ひとりで本を手にするようになっていきます。いつか親離れしていきます。その日までしばらく、子どもと読書をしてみませんか。